



ウェブ記事のコメント欄に見られる独自のコミュニケーションの枠組みとフランス語表現

著者	松田 里沙
雑誌名	筑波大学フランス語・フランス文学論集
巻	33
ページ	42-56
発行年	2018-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2241/00154237

ウェブ記事のコメント欄に見られる

独自のコミュニケーションの枠組みとフランス語表現

松田 里沙

はじめに

インターネット上ではメールやチャット、掲示板など様々なメディアを用いることで、時間的、空間的に切り離された他者とコミュニケーションを取ることができる。そこで取られるコミュニケーションの形態は一様ではなく、コミュニケーションのユーザー同士の関係性や伝達内容によってメディアを使い分けている。

SMS や E-mail では、発信者が受信者を選択し、特定の関係において伝達し合う。これまでの研究において、SMS ではその限られた関係のコミュニケーションの中で、独自の言語表現の変異を創造していることが明らかになっている (Anis 2003, Panckhurst 2009, Beguelin 2012)。その特徴として、従来の書き言葉的な略語形成の手法を取りつつ音声的特徴の書記化を加えた独自性が指摘できる¹。

(1) g ht du kfé

(Panckhurst 2009, 44)

J'ai acheté du café.

上記の例のように、SMS では表記の簡略化や変形が多く見られる。これは限られた字数内でメッセージを送らなければならない、対話者間が相互に既知の関係であるなどといったSMS の持つメディア的特性が大きく関わっている。つまり、メディアの多様化によって生まれるコミュニケーションの形態の違いは、そこに現れる言語表現にも大きく影響する。

一方インターネット空間には、その特性を活かして不特定多数の他者に広く意見を求めたり議論を展開したりできるような、開放的な場も持ちうる。本稿では、SMS などには見られない「一対不特定多数」の構図における発話に注目し、限定的な場に現れる言語表現と比較することで、コミュニケーションの場と言語表現の関係性を明らかにすることを目標とする。

1. 先行研究

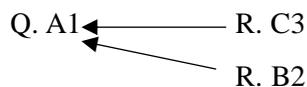
インターネット上において、不特定多数とコミュニケーションを取ることができるツールは多様にあるが、ここではインターネットフォーラム（以下フォーラム）を取り上げた先行研究を検討していく。フォーラムにおけるフランス語言語表現に関する先行研究は、主に Marcoccia (2001, 2004, 2012)、Comporelle & Williams (2007)、Gauducheau (2012) がある。

¹ 松田 (2016) 参照。

1.1. インターネットフォーラム (Forum de discussion)

フォーラムとは、他者とのコミュニケーションや情報収集のために用いられる場で、複数の話者によって共同でひとつの議論の記録（フォーラムのサイト内でアーカイブ化される議論）を構築する。コミュニケーションの枠組みの側面から見ると、フォーラムにおけるやり取りの連鎖は個人間のコミュニケーションの側面とマスコミュニケーションの側面の両方を併せ持つ。Conein & Latapy (2008) はフォーラム内での話者の関係性のパターン例を以下の図のように挙げている。Q. は質問 (Question)、R. は返答 (Réponse)、A~E は話者、数字は発話の順番を指す。

(a) A の質問に B、C がそれぞれが返答する



(b) A の質問に B が返答し、それに C が応答する

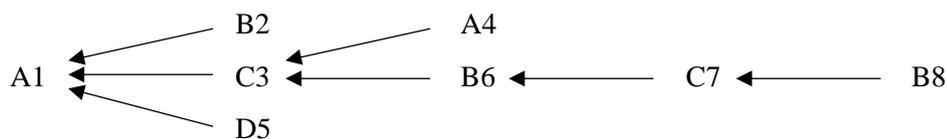


(c) A の質問に B が返答し、それに A が応答する



(d) A の質問に B、C、D が返答し、C の発話について A、B が応答する

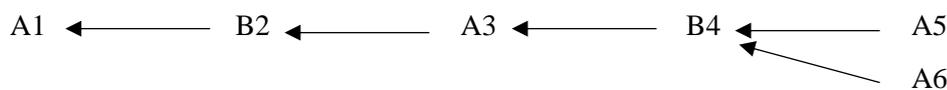
B と C の間で議論が展開される



(e) A の質問に B、C、D が返答し、D の発話について E が応答し議論が展開される



(f) A の質問に B が返答し、A と B の間で議論が展開される



(Conein, B. & Latapy, M. 2008, 345-355)

上図のように、フォーラムにおける議論の開始は話者 A による議題の提示が必須である。

話者 A によるメッセージの種類には「情報を求めるタイプ」と「情報を求めないタイプ」の 2 タイプに分けられ、その中でさらに以下のように細分化される (Gauducheau 2012, 76-79)。

- ・ 情報を求めるタイプ
 - « savoir de connaissance » : 情報の正誤の判断を求める
 - « savoir de croyance » : 情報に関する意見を求める
- ・ 情報を求めないタイプ
 - Apport d'informations (情報の提供)
 - Recherche de contact (交流)
 - Ouverture d'un débat-discussion (議論の開始)
 - Dévoilement / expression de soi et partage d'intérêt (公開 / 自己の興味の開示や共有)
 - Activité ludique (ことば遊び)

つまりフォーラムは単なる質疑応答や議論を行うだけではなく、多数の対話者間で行われる様々な談話を広く扱うことができる場であるといえる。

またフォーラムでは、規則として **Langage SMS** は使用してはいけないと明記している。**Langage SMS** についての詳細は後述するが、つまりフォーラム上では言語表現に制約が起き、**SMS** で見られたような規範的な表現や文法から著しく逸脱した表現は使われないと考えられる。そうした中でのフォーラムにおける言語表現について、**Marcoccia (2012)** による若者向けのフォーラムの分析では、相互理解の効率化のため標準的な書記法が守られていると指摘している。また **Comporelle & Williams (2007)** によると、時間的な状況の違いが言語表現のバリエーションの出現頻度に影響するとし、フォーラムのような非同時性の状況下では「速く返信しなければいけない」というプレッシャーがないため、簡略化された形の語はほとんど見られないことが明らかとなっている。

1.2. 先行研究から見るウェブ記事上の議論の性質

本稿では、先行研究ではあまり扱われていない「一対不特定多数」の構図を持つコミュニケーションの場としてインターネット上で閲覧できる新聞記事のコメント欄を取り上げ、そこでのコミュニケーションの枠組みの特徴と言語表現について検討する。まず、前節で見てきたフォーラムの先行研究に当てはめてウェブ記事のコメント欄の特徴を記述する。

ウェブ記事の場合、記事自体は意見を求めているわけではなく、その記事を基に読者が意見を投げ議論を展開する。また議論の開始もある読者のコメントから発するものであり、そのコメントは他者に意見を求めるものではない。したがって、**Gauducheau (2012)** の分類においては « **Ouverture d'un débat-discussion** » に該当する。

ウェブ記事のコメントでは、ある話者の発話に対して返信や反応を送ることで議論が展開していく。つまり議論の構築の方法は主にフォーラムと同じであると言える。また対話者が

見知らぬ不特定多数であるという話者間の関係性もフォーラムと同様である。

新聞のウェブサイトでは、コメントをする際の規則ではなく言語表現の制約に関する言及はないが、フォーラムと似た状況であることを考慮すると特異な表現は避けられるのではないかと推測できる。

2. 分析の対象と方法

今回の分析では、フランスのスポーツ紙 *L'Équipe* のウェブサイト² を用いて、ウェブ上の新聞記事に付けられるコメント及びそのコメントに対する反応について、コミュニケーションの枠組みにおける特徴と言語表現の特徴の 2 つの側面を観察する。*L'Équipe* では様々なスポーツを取り扱っているが、今回はテーマを « le football », « CM 2018 (2018 年サッカーワールドカップ) » に限定してコーパスを集めた。

L'Équipe のウェブサイトでは、記事それぞれに読者が自由にコメントすることができる場が設けられている。書き手の情報は自由に設定できる写真、ハンドルネーム (pseudonyme) に限られ、書き手の性別や年齢、母語などについての判断ができない。そのため、今回の分析ではそれらの要素を考慮しないこととする。読み手はそのコメントを自由に見ることができ、他人のコメントに返信する形でメッセージを残すことができる。もしくは、良いまたは悪いことを表す手のジェスチャーを模したボタンを押すことで、メッセージを送らずにそのコメントに対して「いいと思う、賛成である」または「悪いと思う、反対である」という評価を与えることができる。



図 1 *L'Équipe* のコメント欄の一例

² <https://www.lequipe.fr/>

2.1. コミュニケーションの枠組みの特徴

2.1.1. 返信の種類

ウェブ記事のコメントは主に記事に対する自分の意見を述べているものだが、そのコメントに対する返信、つまり議論の展開にはパターンが見られ、大きく5つに分類できる。

① コメントに対する賛成または反対

(2) petit-jeanclaude2 - 12h23

Oui il faut gagner cette finale le match le plus important pour cette génération, allez les Bleus

jb008 - 14h21

oui il faut la gagner parce que si mbappe est le nouveau Pelé il faut qu'il en gagne 4. Donc celle-ci est indispensable

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Une-finale-c-est-autre-chose/921648>)

まず多く見られるのが、コメントの意見に対して賛成または反対する意見である。上の例では「この（ワールドカップの）決勝戦が重要な試合となる」という最初のコメントに対して「oui」と賛成の立場を明示した返信をしている。返信者はそうした明示の上でさらに自分の意見を述べ、議論を発展させようとしている。

② 意見や情報の付加

(3) patrick304 - 15h35

En France on est et restera spéciaux. L'équipe est en finale et visiblement certains ne sont pas satisfaits. Ils vous faut quoi pour être satisfaits... tres honnêtement, je plains votre femme, votre famille et votre vie. Parallèle moyen mais utile, regardez les sourires et la force des gamins Thaïlandais, entre 11 et 13 ans, coincez dans la grotte. Ca devrait améliorer votre quotidien... enfin je l'espere

fanch67 - 08h44

Le problème: ce ne sont pas des supporters français. Ils supportent sûrement d'autres pays. Ce qui est bien, c'est qu'ils ne viendront pas fêter la victoire avec nous.

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Une-finale-c-est-autre-chose/921648>)

①とは異なり最初のコメントに対し賛成、反対の立場を明確にせずに自分の意見を述べているコメントも見られる。この例では、最初の話者 patrick304 に対する返信で fanch67 がその意見に加えるべき問題点を指摘している。このように、返信元の意見に対する賛成、反対の

立場を述べるのではなく、議論を広げるような付け加えるべき情報や意見を返信するパターンである。

③ 反論

コメント欄の中では、強い反論によって喧嘩のような状況が生み出される場合がしばしば見られる。これは反対意見として①とも関連づけられるが、返信者は先のコメントを強く否定し、議論を広げるというより喧嘩を仕掛けてるように思われるものがここに該当する。

(4) 2B-Or-Not-To-Be - 12h24

Je croise les doigts pour qui remportent la finale juste pour enfin faire taire les anciens 98 qui commentent et critiquent tout !! Du coup, Ils ne seront plus les seuls titrés !

Audrore - 13h15

Grande contre des faibles surtout.

Simoncarot - 13h29

Audrore c'est exaspérant cette volonté de tout critiquer. La France élimine une Argentine, certes faibles, mais qui possède, intrasequement, la meilleure attaque du monde . Elle élimine l'Uruguay que certains pronostiqueurs (je te réfère à l'article du Monde sur le sujet) jugeaient comme l'équipe capable de gagner la compétition. Ils éliminent maintenant la Belgique, meilleur attaque de la compétition, qui ont roulé sur leurs adversaires et battu le Brésil ultra favoris.

illafaitexpres - 14h37

@Audrore : et ils sont où les "forts" ? De qui parlez-vous ? L'Allemagne ? Le Brésil ? L'Espagne ? L'Italie ? Les Pays-Bas ? Le Portugal ? Dites, ils sont où tous ??

cocobellu - 00h06

Pas d'accord avec rougail saucisse. Les anciens de 98 encouragent l'EDF

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Une-finale-c-est-autre-chose/921648>)

上記の例は、Audrore が「(他国のチームが) 特に弱い」と批判しているのに対し、それ以降の返信者が反論している場面である。ilafaitexpres の返信を見ると、Audrore に対して「どの国が強いと言えるのか」と聞き返し、一般的にサッカーが強いと言われる国を列挙し質問を繰り返すような発話をしている。ここで、この発話は単なる質問ではなく ilafaitexpres が Audrore に対して強く反発していることが読み取れる。

④ 同調

また反論とは逆に、意見について同調するコメントも見られる。これもまた肯定の一種であると言えるが、①で見たような肯定はさらに意見を述べて議論を発展させていったのに対し、この場合は先のコメントの発話を繰り返すことで「返信元と全く同じ意見である」ことのみを示している。

(5) RPIMA - 14h24 et Kanté ????

adn74 - 17h46
Oui et Kanté ?

mike94400902 - 19h10
magique!!!le meilleur joueur du mondial Kanté il est ou??

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/L-equipe-type-de-la-coupe-du-monde-une-amicale-franco-belge/923650>)

この例はチームの出場選手を紹介する記事に対するコメントで、Kanté という選手が紹介されなかった場面である。最初の返信 « Oui et Kanté ? » は、最初のコメント内容を肯定した上で同じ発話を繰り返すことで最初の話者 RPIMA に対する同調を示している。また、mike94400902 の発話は最初のコメントと全く同じ表現ではないが、意味的には上二人の意見と全く同じで、省略された発話を詳しく述べているものであると考えられる。

⑤ 反応

上記①～④までにおける返信の発話内容は、いずれも最初のコメントを基にさらに自分の意見や立場を示すものであった。しかし全ての返信がそのように議論を展開するものであるわけではない。

(6) Corsair@1986 - 09h01 Didier pense a tes dents ..! Doucement sur la médaille

LuisFernandez - 20h04
ahahah mord de rire....

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Les-vacances-des-champions-du-monde/924908>)

上の例の返信では、「*mord de rire*³」と述べ「(Corsair@1986 のコメントが) 面白い」ということのみを伝えている。この発話では話者の最初のコメントに対する賛成、反対の立場ではなく、単なるコメントに対する反応しか読み取ることができない。このように、コメント欄でのコミュニケーションには、意見のやり取りだけではなく議論に発展しえないような発話も多く見られる。

2.1.2. やり取りの構造

L'Équipe のコメント欄では、返信は投稿されたコメントにのみできるものであり、返信コメントには評価を伝えること (*signaler*) しかできない。したがって、返信のやり取りの中で特定の相手に発話したいときは、宛先であるユーザー名を加えなければならない。

(7) Fredou1976 - 14h08

Thiago Silva !!! MDR !

Take It Easy - 14h17

Rigolo! Il a fait une tres bonne CDM! Tout comme Coutinho et meme Neymar n'a pas ete ridicule ds le jeu aubdela de son abus de cinema.

chaaaf - 14h29

Tale it easy, c'est toi qui fait rire ... le Brésil était si faible que même leurs bons joueurs se sont noyés ...

SmashTT - 22h41

Et les autres se sont roulés... d'ailleurs il y en a un qui roule encore....

bibi033 - 09h47

@Take it easy, c'est vrai que cette fois il n'a pas pleuré.

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/L-equipe-type-de-la-coupe-du-monde-une-amicale-franco-belge/923650>)

上の (7) では、Fredou1976 のコメントに対して 4 人の対話者が返信したことになっている。しかし実際の発話の方向を見てみると、chaaaf と bibi033 は Fredou1976 ではなく Take It Easy 宛てに発話していることがわかる。つまり、ここでのコミュニケーションは必ずしも返信元と多数の返信者との間に行われるものではなく、返信者同士での二次的なコミュニケーション

³ « mort de rire » の誤字であると推測する。

ンも発生しうる。その二次的なコミュニケーションでは宛てるべき方向を明示する必要があるため、共通して«@»の記号が用いられることがあるが、それは話者にとって任意的な規則である。

2.2. 言語表現

次に、コメント欄で使われる言語表現の中で正書法から逸脱しているものを挙げ、その特徴を考察する。SMSでは、対面コミュニケーションや電話に近い即時的なやり取りの状況を作り出すSMSのメディア的特性から、音素やリズムなど音声的観点から捉えた変形が創造されていた。一方コメント欄で行われるコミュニケーションは即時的なものではないため、会話のような状況をわざわざ描く必要はないと思われる。しかし、実際のコーパスを観察してみると、手紙やメールに見られる挨拶のような定型様式は見られず、完全に書き言葉的特徴に準じているとは言い切れない。

2.2.1. Langage SMS

SMSで見られる表記の変異は、langage SMSとしてまとめられる。それらはSMSが作り出すコミュニケーションの状況によって現れるものと考えられているが、しかし今回のコーパスであるウェブ記事のコメント欄の中でもlangage SMSと見なされる言語表現が観察された。

- 母音字省略

単語内の母音字を落とし語頭、語末子音字またはその単語の骨格を成す子音字によって単語を簡略化する手法は、SMSだけでなく一般的な書記法として認識されている。コメント欄では、以下のような例が見られた。

- (8) Depuis qu'il joue à Paris je l'appréciais moins. Mais force est de constater qu'à même pas 19 ans il a un avenir très prometteur qui s'annonce *pr*⁴ lui. Imaginez Mbappé mais un Mbappé encore plus sérieux et appliqué qu'aujourd'hui?? Ce mec va devenir une légende du foot je le lui souhaite.
Bravo

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Kylian-mbappe-elu-meilleur-jeune-joueur-de-la-coupe-du-monde/923083>)

- (9) Hé aouais... On est *pt'êtr*e pas les plus beaux du monde, mais on en a une (deuxième) de 37 cms en or massif !

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-france-decroche-sa-deuxieme-coupe-du-monde-apres-une-finale-animee-contre-la-croatie/923054>)

⁴ 該当箇所のイタリック処理はすべて筆者によるものである。

(8) では pour の ou、(9) では peut être の eu を落としている。(9) ではさらに省略符号を用いて 2 語を 1 語に見せている。これらの単語は頻繁に簡略化されうるものであるため、話者は、メッセージの受け手である多数の対話者との間の共通認識として問題なく理解されるものであると期待していると考えられる。

- 縮約

複合語の頭文字や骨格となる子音字を残して縮約する簡略化表現においてもまた language SMS に限られた方法ではない。そのような書き言葉的手法の類推としての縮約が、様々な語へと拡張されている。

(10 =(7)) Thiago Silva !!! MDR !

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/L-equipe-type-de-la-coupe-du-monde-une-amicale-franco-belge/923650>)

- 音声的観点による語の置き換え

音声的観点による語の変異は、SMS の言語表現の研究で特に指摘される点である。それは特に話し言葉と書き言葉の接点の問題が SMS の即時的コミュニケーションと強く結びつくからである。しかし、そのような即時的コミュニケーションを取らないコメント欄でも、同様の置き換えが起こる場合がある。

(11) Yavait qui d'autres comme candidats ?

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Kylian-mbappe-elu-meilleur-jeune-joueur-de-la-coupe-du-monde/923083>)

(12) non lex c pas ça. c juste que nous spectateurs on veut voir des beaux matchs. le foot est un spectacle. depuis que tu peux gagner des points, de l'argent et le match en betonant, les matchs sont devenus « pourris », d'un ennui. jusqu'a les années 95 avec l'ajax c'était le pied. apres nul.

(<https://www.lequipe.fr/Football/Article/La-finale-d-antoine-griezmann-decryptee/923214>)

上の例を見てみると、確かに発話文の中で置き換えが起こっているが、いずれも一部のみである。他の例を見ても、置き換えが発話全体に及んでいる例は見当たらなかった。SMS ではこのような置き換えが起こる場合、(1) の例のようにその変異は発話全体に及ぶ。したがって、コメント欄において音声的観点からの語の変異は、受け入れられ難いものと考えられていることが示唆される。

- アクサン記号、省略符号の脱落

フランス語の正書法ではアクセント記号や省略符号を欠くと誤用と見なされるが、コメント欄ではそのような記号の脱落の例が多く見られた。

(13) *desole* , nous *etions* quelques centaines et avons tous pris un pied pas possible !!

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Une-finale-c-est-autre-chose/921648>)

(14) *C est* la mondialisation du foot ,ya des entraîneurs étrangers dans tous les championnats et les joueurs n'en parlons pas ,mais *j aurais* bien vu gerets à la tête des diables rouges

(<https://www.lequipe.fr/Football/Article/Pourquoi-choisir-un-selectionneur-etranger/920899>)

(15) allez mbappe *t es* le meilleur , sinon y a rien devant

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Une-finale-c-est-autre-chose/921648>)

- 他言語の流入

また、発話内の一部の変形として指摘できるのが、他言語の単語の使用である。例えば以下の例のように、一単語のみを英語に置き換えるなど、英単語の流用が主に観察される。

(16) *Stop le marketing* d'un joueur moyen. Il a rien fait de grand.

(<https://www.lequipe.fr/Football/Article/La-finale-d-antoine-griezmann-decryptee/923214>)

(17) *Yessss c clair* !!!

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-france-decroche-sa-deuxieme-coupe-du-monde-apres-une-finale-animee-contre-la-croatie/923054>)

ここまで **langage SMS** を軸に捉えなおしてみたが、全体を通してコメント欄において新たな創造性を持つというより、**SMS** などで行われた既存の略語形成をそのまま流用しているということがわかる。したがって、今回観察された **langage SMS** は **SMS** という域を超えて一般化し、不特定多数のフランス語話者に通じる語として認識されていると言える。

2.2.2. 記号と非言語情報

前節では主に書き言葉としての語の変異を扱ってきたが、インターネットコミュニケーションでは欠けた身体性を補うために記号を用いて非言語情報を表出する。記号や文字を駆使することで音声的特徴であるイントネーションや対面でしか伝わり得ない話者の表情などを表し、まるで対面会話のような臨場感を生み出す。

コメント欄では、議論という行為から感情や語気の強さを示す必要性があるため、記号も多様な現れ方をしている。例えば、「？」や「！」といった記号を重ねて使用することで、よ

り強い意味を持たせることができる。

(18) Magnifique on ramène tout à la maison la coupe et le plus beau but ??????????????????

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-demi-volee-de-benjamin-pavard-elue-plus-beau-but-de-la-coupe-du-monde/925650>)

(19) Et beh les rois du ballon d'or. ..?!?!? Vous n'avez pas mis Leo et cricri ????

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/L-equipe-type-de-la-coupe-du-monde-une-amicale-franco-belge/923650>)

また記号群の羅列によって表情を表す顔文字の使用も観察された。

(20) Totof mdr, t'es à Miami? Lâches ton téléphone et profites ;-)

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Les-vacances-des-champions-du-monde/924908>)

(21) youshnouf mdr ah que c'est bon de vous voir rager XDDDD

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-france-decroche-sa-deuxieme-coupe-du-monde-apres-une-finale-animee-contre-la-croatie/923054>)

しかし、SMS や先行研究で挙げたフォーラムで頻繁に使われるような絵文字はコメント欄内での使用例がなく、以下の例のような表情の豊かさは見られない。

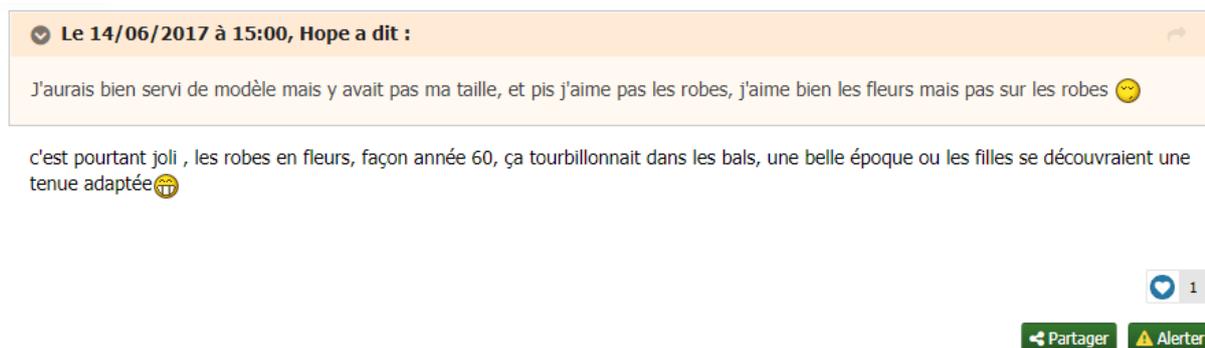


図2 フォーラムにおける絵文字の使用例

コメント欄では上図内に見られるような絵文字、さらには顔文字でも多様性に欠け、かつ使用例も少ない。フォーラムで頻繁に見られる図像性による感情表出は、記事のコメント欄では具体性に欠けるものである。つまり、表情や非言語行動などで表現される感情はこのようなコミュニケーションの場では必要とされないと考えられる。さらに、「!」「?」の例から推察すると、記号は主に強調やイントネーションの表出のために使われていると言えるだ

ろう。

記号とは逆に、文字でイントネーションを表す方法は多岐に渡る。以下の (22)、(23) の例のように、大文字化することで声の大きさを示し、より強調したい発話であることを明示する。また、(22)、(24) で文字を重ねることで長音を表し、音声のように書き記すことで臨場感を表している。しかし (24) のように、実際には発音しない語末子音字を重ねているものもあり、実際の音声とのずれが生じているように思われる。

(22) *ÉNOOOOOOOOOORME!!!*

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Kylian-mbappe-elu-meilleur-jeune-joueur-de-la-coupe-du-monde/923083>)

(23) *ON EST CHAMPIONS !!! Certes, dans le jeu on peut nettement mieux faire, mais on a une équipe encore jeune est déjà sacré championne du monde, y a de belles perspectives futures !!! Bravo messieurs !!!*

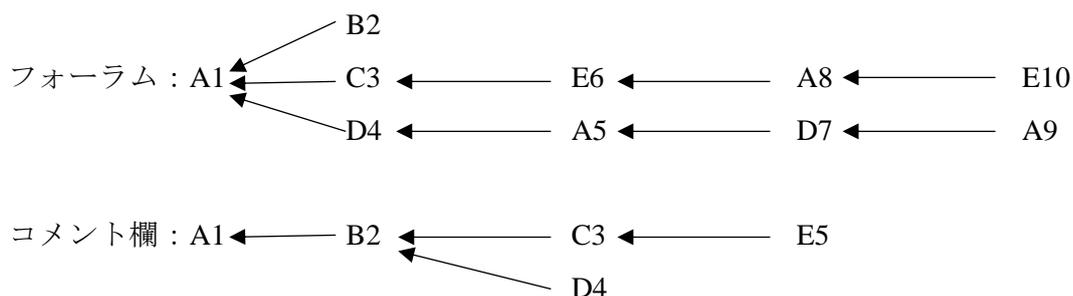
(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-france-decroche-sa-deuxieme-coupe-du-monde-apres-une-finale-animee-contre-la-croatie/923054>)

(24) *Allezzzzzzzzzzzzzz les bleus faites le pour nous!!!!!!!!!!!!!!!*

(<https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/La-coupe-du-monde-un-trophee-si-convoite/922393>)

3. 考察

以上まで分析を行ってきたが、先行研究で扱われてきたフォーラムと今回のコメント欄では、コミュニケーションの枠組みにおいて大きな違いがあることが明らかになった。フォーラムでは、一つの質問や議題の提示に対する複数の返答から議論が展開され、議題を提示した話者 A は展開していく議論の中心に位置する。しかしコメント欄では、A が記事に対する自分の意見を述べ、それに対する返答や反応があるのみで、コミュニケーションは常に一方的である。またその返答の中で複数の話者によって反応されることがありうるが、それに対して A がさらに返答して議論を広げるといったやり取りは少ない。フォーラムとコメント欄のやり取りの違いを図式化すると以下のようなになる。



先行研究で見たように、フォーラムのコミュニケーションのあり方は上記の例に限られたものではないが、そのコミュニケーションの枠組みの種類の違いとして指摘できる。つまり、コメント欄の方がより狭く一方向的な議論の展開の仕方を行っていると言える。

言語表現について、langage SMS のような語の脱落や簡略化は観察されたものの、全体として SMS ほど多くは見られなかった。Langage SMS の中でも、mort de rire → mdr のような簡略化が特に見られ、(1) で見られたような acheter → ht といった音韻による造語の例は少ないことが明らかとなった。つまり、変異を新たに作り出す過程は SMS で起こりやすいがコメント欄では起こりにくく、一方で語の簡略化などの単純化のみの作業はコメント欄でも起こりうるため、語の簡略化は langage SMS の枠を越えて一般化しているのではないかと考えられる。

非言語情報の表現では、絵文字が使えない代わりに記号や文字で表現する手法が多く取られていることが明らかとなった。顔文字の使用も同様に少なかったことから、コメント欄の中では表情は不必要な要素であることが指摘できる。しかしイントネーションやアクセントの表現は多様であったため、強調して主張する必要がある場としての特徴が現れていた。したがって、コメント欄での主張や議論というコミュニケーションの場の特徴によってそのような SMS との差が現れたと考えることができる。

おわりに

本稿では、インターネット上で行われる一対不特定多数のコミュニケーションについて、その枠組みと言語表現への影響を考察した。不特定多数の対話者とのコミュニケーションと言っても、例えばフォーラムやコメント欄といったメディアごとにその枠組みには多様性がある。つまり、インターネット上では話者が使用するコミュニケーションメディアによって相互行為の種類が多様化している。また今回はスポーツ紙のみの分析となったが、談話ジャンルの側面で見ると非常に限定的であることが問題点として指摘できる。そこで今後の展望として、談話ジャンルによって言語的変異のレベルが異なる可能性をより詳しく調査する必要がある。

言語表現の分析において、SMS に現れる言語表現と比較して考察すると、そこに現れる言語規範からの逸脱のレベルがコミュニケーションの場によって異なることが明らかとなった。しかし、今回は現象の観察に留まったため、その逸脱のレベルの強さを左右する要因を明らかにする必要がある。

参考文献

- Anis, J. (2003) : « Communication électronique scripturale et formes langagières : chat et SMS », *Rencontres Réseaux humains/réseaux technologiques*, 4, Université de Poitiers, [https://www.medienprache.net/archiv/pubs/2810.htm]

- Béguelin, M.-J. (2012) : « La variation graphique dans le corpus suisse de SMS en français » Caddéo, S., Roubaud, M.-N., Rouquier, M. et Sabio, F. *Penser les lanuges avec Claire Blanche-Benveniste*, pp.47-62.
- Compernelle, R. A. van & Williams, L. (2007) : « De l'oral à l'électronique : la variation orthographique comme ressource sociostylistique et pragmatique dans le français électronique », *Glottopol : Revue de sociolinguistique en ligne*, 10, Université de Rouen, pp.56-69.
- Conein, B. & Latapy, M. (2008) : « Les usages épistémiques des réseaux de communication électronique : Le cas de l'Open-Source », *Sociologie du travail*, 50, pp.331-352.
- Crystal, D. (2001) : *Language and the Internet*, Cambridge, Cambridge University Press.
- Gauducheau, N. (2012) : « Demander de l'information dans un forum de discussion. L'exemple d'Ados.fr », *Les Cahiers du numérique*, Vol.8, pp.63-96.
- Marcoccia, M. (2001) : « L'animation d'un espace numérique de discussion : l'exemple des forums usenet », *Document numérique*, Vol. 5, pp.11-26.
- (2004) : « L'analyse conversationnelle des forums de discussion : questionnements méthodologiques », *Les Carnets du Cediscor*, 8. [<http://cediscor.revues.org/220>]
- (2012) : « Définitions et négociations de la norme scripturale dans un forum de discussion d'adolescents », *Études de linguistique appliquée*, n°. 166, pp.157-169.
- Panckhurst, R. (2009) : « Short Message Service (SMS) : typologie et problématiques futures », in Arnavielle, T. (coord.), *Polyphonies, pour Michelle Lanvin*, Université Paul-Valéry Montpellier 3, pp.33-52.
- 松田 里沙 (2016) : 「フランス語の新たな略語形成における創造性—SMS に現れる略語の形態的分析—」『筑波大学フランス語フランス文学論集』31、pp. 15-24.

Forum fr : <https://www.forumfr.com/>

L'Équipe : <https://www.lequipe.fr/>

(まつだ りさ / 文芸言語専攻 5 年)